

渡島総合振興局における農福連携の推進に向けた取組 ～JA花き共選施設における障がい者就労の取組支援～

◎取組の経緯（きっかけ）

令和元年に渡島総合振興局が開催した農福連携農作業体験会や福祉施設における作業見学会にJA新はこだてとクレドホテル函館（就労継続支援A型事業所）が参加。

就労者を確保したいJAと就労場所を確保したいクレドホテルのニーズが一致し、振興局が仲介して幾度となくテスト就労や検討を重ね、障がい者の体調に配慮した無理のない就労をしながら、福祉事業所職員が常に付き添いサポートを行うことで就労が合意された。

この結果、令和2年5月からJA花き共選施設で障がい者9名がカーネーションの選別作業を開始した。



選別作業の指導を受けながら作業を覚える障がい者（R2年）

◎推進体制や取組内容

➤取組内容

○振興局が調整して、次の4つのステップで農福連携の取組を進めた。

STEP1 関係者検討会の開催

取組の方向性について共有

STEP2 相互見学会の開催

農業現場、福祉事業所の現場を見て、お互いを知る

STEP3 農作業体験会の開催

福祉事業所の支援員と利用者が体験して、改善点を見つける

STEP4 本格実施に向けた検討会の開催

本格実施に向けた改善点の共有、委託条件の決定

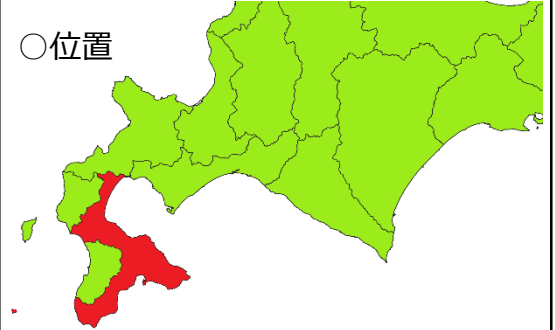
○作業理解向上のため、カーネーションの選別作業のマニュアルを作成した。

➤取組にあたっての留意点

- ・JAと福祉事業所が徹底した話し合いを行い、相互の信頼関係を築いている。
- ・新たな事業所の受入に際しては、JAが前年秋期に作業体験会を実施して確認している。

渡島地域の概略（2市9町）

○位置



○農業データ
経営形態
水稲、野菜、
花き等

○福祉データ
A型福祉事業所
7か所
B型福祉事業所
65か所
(振興局管内)

※令和4年12月31日現在

◎成果と課題 □：成果、■：課題

- JA施設における就労者の確保により、花きの生産・出荷体制が安定した。
- クレドホテルの取組が評価されたことで、令和4年度から新たに3事業所が施設外就労に参入した。施設外就労者数は年々増加しており、花き共選施設従事者の約1/3が事業所の利用者となった。
施設外就労者数の推移（前年からの継続） R2：9名、R3：12名（6名）、R4：25名（6名）
- 作業マニュアルの作成や施設の安全体制の見直しによって、作業環境が改善された。
- 障がい者が作業内容を理解しやすいよう分担する作業を固定したが、体調不良で突然休まれると作業が回らなくなることがあったため、余裕をもった人員配置を検討する必要がある。
- 同一法人の複数事業所が作業しており、指導員が交代で対応するため、指導員同士や選果場スタッフとの連携を整備する必要がある。



障がい者の作業をサポートする施設職員（中央奥側）